

学校評価システムの充実・推進

札幌市立厚別通小学校

I はじめに

学校改善に結び付いた 学 校 評 価

1 本校における学校評価のねらい

学校が自主性・自立性を発揮し、保護者や地域住民の思いや願いに応える教育活動を推進していくことが求められている現在、適切な評価結果に基づく学校改善を進めることが急務となっている。本校においては、より一層、保護者や地域住民の信頼に応える「開かれた学校」を目指し、今年度は、昨年度構築した学校評価システムをさらに推進発展させることを重点とした。

2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

【その1】中間評価システムの構築

形骸化していた学級経営案を PDCA サイクルで自己評価することとし、学校評価とリンクさせ、「子どもの育ち」に視点をあて中間評価を実施し、中間評価のシステムを整えた。

【その2】「朝の読書」の試行

19年度4月から、週に一度学校全体で「朝の読書」に取り組むこととした。日課等の大幅な変更は行わず、「朝の会」の時間帯で行う。19年度は、「朝の読書」の試行時期と位置付け、成果と課題を明らかにしていく。

【その3】アベニューチャレンジの方向性確定

本校の特色ある活動の一つであるアベニューチャレンジ(毎週火・水曜日の放課後に校長以下全教職員で実施)は、習熟度別などの発展の方向性も探ったが、通常の学習時間内で担任がフォローしきれない児童をマンツーマン指導し、基礎・基本の定着のための時間と方向性を確認した。

【その4】日曜参観日及び地域公開日

保護者はもちろん地域にも信頼される学校を目指し、19年度から日曜参観日と合わせて地域公開日とし、学校関係者評価委員や地域の方にも参観していただいた。

II 本校の学校評価のシステム

学校評価システム

1 自己評価と評価委員会

本校では、前期－目標作成（P I）→実施（D I）→中間評価・反省（C I）→改善（A I）→後期－目標作成（P II）→実施（D II）→評価・反省（C II）→改善（A II）の2サイクルで、学校の自己評価を行っている。

中間評価

中間評価は、学級経営案とリンクさせ各学級の自己評価（子どもの育ちを窓口）を基に、学校全体で検証して成果や課題を共有化し、さらなる方策を示した上で改善に向かっている。

年度末評価

12月に実施する年度末評価(CⅡ)は、4月の学校説明会で提示した「学校経営の方針」の項目を窓口に、子どもがどう育ったかを評価の中心としている。
 年度末評価(CⅡ)の成果と課題を明らかにすることにより、より良い教育課程の編成と実施を目指すこと、次年度計画に反映させることを目的としている。
 今年度は、評価のための評価にならないよう学校評価のねらい・手順等をさらに明らかにしながら推進し、学校改善に結び付く学校評価システムの充実を目指している。

校内評価委員会

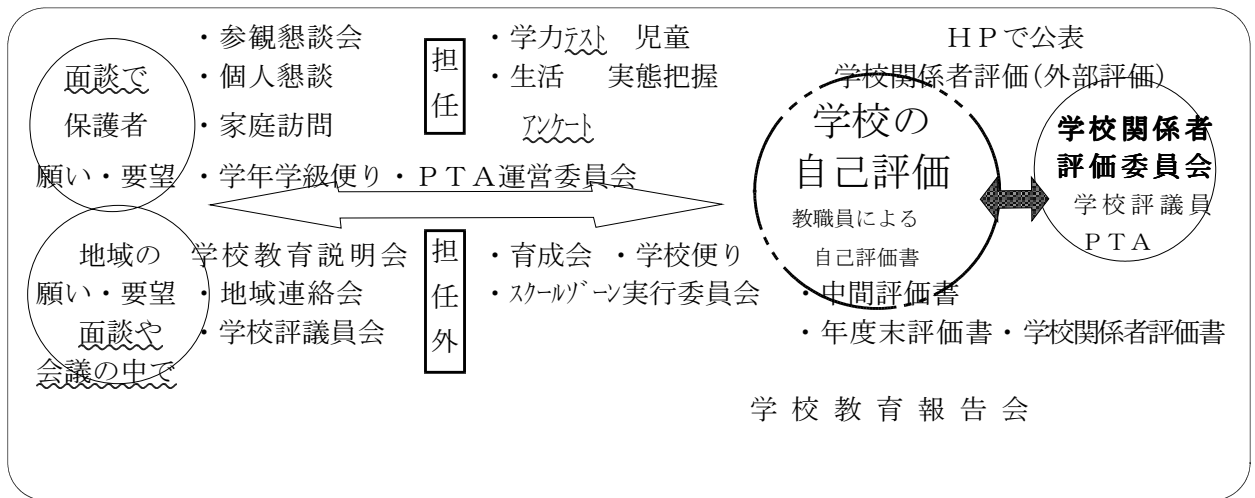
学校の自己評価に当てっては、教務主任・保健主事・学年主任で構成される評価検討委員会が運営に当たる。校内組織を中心とした協働体制は確立しており、教職員の共通理解のもとに、計画的に学校評価を推進している。

学校評価を具体的に進めていくためには、「いつ」、「誰が」、「どのような方法」で評価し、改善していくのか見通すことが必要である。また、教職員の自己評価だけでなく、「児童の実態」の他に、「児童・保護者や地域の人々がどんな思いや願い」をもっているのか把握した上で、進めていかなければならない。

「保護者の願い・要望」は、面談により収集

本校では、保護者・地域住民の「願い・要望」などの情報収集は、アンケート形式では行わず、「直接お聞きする」ことを基本としている。そこで、本校の教育活動全般を洗い出して、4月に今年度の「年間評価計画」を作成し、提案している。これは、全教職員が、学校評価をどのように進めていくか、また「実態」や「思い・願い」を、どの活動でどのように情報収集するのか理解できるようにしたものである。

教職員一人一人は、年間評価計画に基づき、どんな願いや要望をもっているのか、情報を収集する責務を担っている。



2 学校関係者評価委員会(外部評価)

本校は、昨年度、学校関係者評価システムが構築され、学校関係者評価委員会が設立されている。この委員会の中で、本校の学校の教育活動についてご理解していただき、併せてご助言もいただいた。学校改善に向けて重層的な評価が進んでいると考える。

今年度も学校関係者評価委員会を6月から設置し、学校の自己評価が適切に行われているか、学校改善に向けての取組が行われているか、検証している。構成メンバーは、学校評議員5名、PTA会長の6名である。(校長名で委嘱)

今後も、学校内部で行う自己評価を受け学校改善を推進していくことはもちろんであるが、いただいた助言や示唆を真摯に受けとめ、学校改善に生かしながら、保護者や地域住民の信頼に応える「開かれた学校」を目指している。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価				学校関係者評価
	学校（教職員）	児 童	保 護 者	地 域	学校関係者評価委員会
4	新年度の学校経営方針決定 指導部・各部年間計画 通学路点検 朝の交通安全指導 校内学びの支援委員会実態把握 PTA 総会 学校教育説明会	前期のめあて	参観・懇談時に 願い・要望の収集 家庭訪問時に願 い・要望の収集 交通指導後アンケート	町内会総会にて 願い・要望を収 集	
5	運動会のねらい、育てたい力の 提示 通知票検討（評価規準の確認） 安全点検計画	運動会振り返り 記入 「萌える」振り 返り記入	参観・懇談時に 願い・要望の収 集		
6	学年年間計画の作成・学級経営 案交流 評価検討委員会（年間評価計画） 運動会での子どもの育ち提示 学びの支援児童理解・支援計画	「かける」重点 の記入		健全育成委員会 総会にて願い・ 要望を収集	第1回学校関 係者評価委員 会実施
7	中間評価集約 学年学級経営中間自己評価書作 成見直し	生活の様子アン ケート	参観・懇談時に 願い・要望の収 集	スクールゾーン実 行委員会にて願 い・要望を収集	
8	中間評価全体会 評価を受けて改善		交通指導後アンケート		
9	通知表発行 中間評価の内容をホームページ にて公表	前期自己評価通 知票記入	防犯指導後アンケ ット	地域公開日参観 願い・要望を収 集	第2回学校関 係者評価委員 会 実 施 地域公開日参観
10	前期活動の成果改善点 後期の重点 学びの支援 保護者の願いを受 けて支援計画見直し	後期のめあて	個人懇談時に願 い・要望の収集		第1回学校関 係者評価自己 評価書作成
11	学習発表会のねらい、育てたい 力の提示	学習発表会振り 返り記入 「輝く」振り返 り記入			
12	学習発表会での子どもの育ちの 提示 学校評価全体会 評価を受けて改善	生活の様子アン ケート	参観懇談時に願 い・要望の収集		
1			交通指導後アンケート		
2	学年学級経営自己評価書作成 卒業式で育てたい力提示 次年度の教育計画	学習実態アンケ ット		地域連絡会開催 健全育成委員会 総会にて願い・ 要望を収集	第3回学校関 係者評価委員 会実施
3	卒業式での子どもの育ちの提示 通知表発行・指導要録記入 学校教育報告会 学校評価の内容をホームページ にて公表	「伸びる」自己 評価通知票記入	参観懇談時に願 い・要望の収集		第2回学校関 係者評価自己 評価書作成

IV 学校評価の方法

子どもの育ちを窓口に 1 自己評価

評価項目の
重点化を図る

(1) 中間評価

本校の中間評価は、学級経営案の自己評価となっている。

各学級が4項目についてどんな手だてや取組を行い、それによってどんな子どもの育ちを実感できたか成果や課題を明確にし、後期に向け、さらなる方策を示す自己評価書を作成した。

- ・今年度重点目標実現に向けて（学年学級目標から迫る）
- ・基礎的・基本的な学力を身に付けるために（授業改善、家庭学習との連動、多様な指導法の工夫）
- ・「思いやりの心あふれる」「あいさつのひびき合う」学校づくりへ
- ・コミュニケーション能力を育てるために

を項目とし、学級の子どもたちの育ちを振り返り評価している。

中間評価全体会では、担任による自己評価書や生活の様子を中心とする内容で全学年で実施している児童アンケート結果などから、本校の子どもたちの実態をとらえ、「後期の重点」（教職員の行動目標）を学校全体で共通化した。

学校経営方針を窓口に

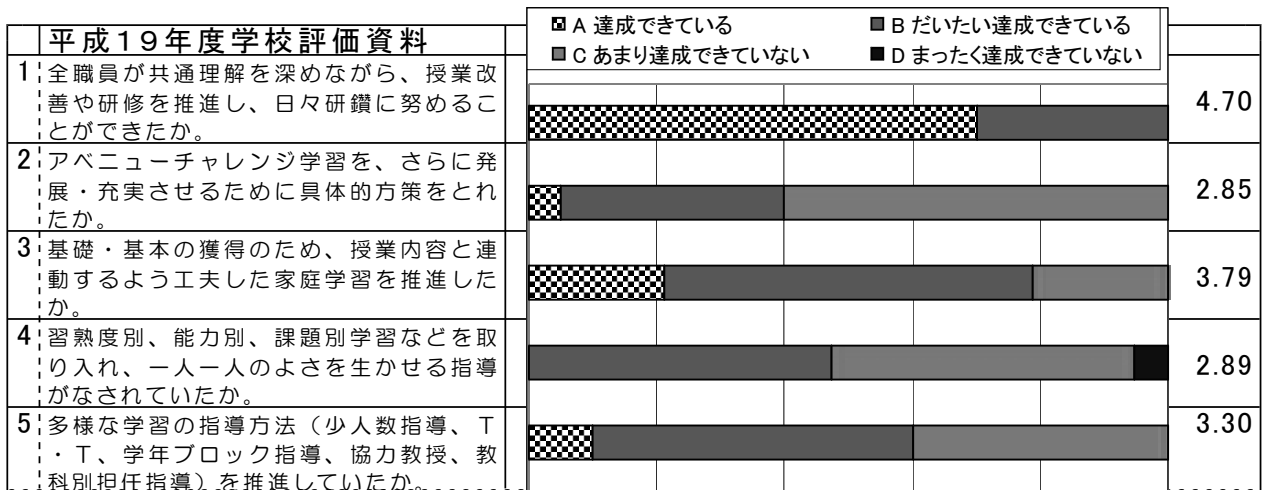
(2) 年度末評価

年度末評価は、「学校経営の方針」の50項目について、全教職が達成度について評価した。あわせて、問題点・反省点のほかに、改善点の方策を具体的に記述した。50項目は、4観点で評価する。

「A～達成できている」5点、「B～だいたい達成できている」4点
「C～あまり達成できていない」2点「D～まったく達成できていない」1点
として、点数化が、左の数値となっている。数値の低いものについては、改善する必要があると判断している。集約後、どの校務分掌がイニシアチブをとり、改善推進していくかも明確にしている（○印）、年度末評価全体会では、この部が改善策を提案する。

年度末評価アンケート

		A	B	C	D	教務	環事	指導	行事	学活	児活	研究	学級
1	全職員が共通理解を深めながら、授業改善や研修を推進し、日々研鑽に努めることができたか。											○	
2	アベニューチャレンジ学習を、さらに発展・充実させるために具体的方策をとれたか。											○	
3	基礎・基本の獲得のため、授業内容と連動するよう工夫した家庭学習を推進したか。												○



2 学校関係者評価

中間評価自己評価書、年度末評価自己評価書に対し、学校関係者評価委員会に検証していただいた助言を受け、教頭が学校関係者評価書を作成した。これらを真摯に受けとめ、次年度計画に生かしながら学校改善を推進していく。学校関係者評価書は、資料として添付する。

V 評価結果の公表

公表方法の多様化

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行う。

- ・学校便り
- ・学校ホームページ
- ・学校教育報告会
- ・地域連絡会

2 公表の効果

寄せられた声は、いつでも集約し、学校全体で理解する。対応できるものについては、すぐに改善に取り組む。改善点やさらにご協力をお願いすることは、学校便りを通して、保護者に知らせるなど、常に「軽いフットワークで」を念頭に置き、学校改善に取り組んできた。

保護者の願い・要望が、学校改善につながっていくことが徐々に理解されてきている。今年度は、防犯安全についてさらに保護者の意識の高まりを感じ、玄関の施錠について要望が寄せられたり、今年度から全校で取り組んだ「朝の読書タイム」の協力体制が強まったり、学校経営方針や改善に向けての取組が理解されてきている。

平成8年度から実施している地域連絡会は、地域で過ごす子どもたちの様子を把握したり、学校の経営方針等を伝え協力をお願いしたりする大切な場となっている。地域の皆様には、この場を通して理解していただいている。

VI 他地域における学校評価

1 東京都品川区立城南小学校の学校評価

品川区立城南小学校は、小中一貫教育（1年～9年）の学校である。品川区は学校選択制を実施しているため、保護者側は、学校選択する際に学校評価を情報の一つとしている。学校評価システムは、品川区が作り、区の全学校で同じ評価方法をとっている。また、特徴として学校関係者評価者に中学校長（中学校の学校関係者評価者に小学校長）が選任されている。現在学校関係者評価は、大学の教授、保護者（保護者はPTA役員ではなく、元々地域に住んでいて地域とのつながりが深い人）・地域の名士など8名で構成されている。

評価サイクルは、教育に関する予算化の関係上、8月から12月に中間評価を行い、4月に学校経営方針を出し、7月に年度末評価を行っている。

また、専門の大学教授が、校長2回、教頭1回、主幹1回、それぞれ2～3時間ヒアリングを行う専門外部評価システムもある。これらの評価を基に、次年度の学校経営方針が決まっていく。

2 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係 指定事業研究会協議会

教育課程の実施状況に関する自己点検・自己評価に係わる研究指定校事業に参加した。小学校関係は、秋田県五城目町立五城目小学校、広島県福山市立久松台小学校の2校が発表した。両校とも授業実践の研究を中核に据えた教育課程の自己点検・自己評価と組織の構築についての発表であった。質疑応答は、学校関係者評価も含めた学校評価についてが中心であった。

VI 成果と課題

昨年度から、学校の自己評価と共に学校関係者評価システムも整備された。学校評価が、学校や保護者・地域が同じ思いで子どもたちの健全な成長をはぐくんでいけるよう、連携を強めるシステムであることを実感している。

特に、中間評価では、改善の重点を明確にし、行動（取組）目標まで掘り下げ意思統一して子どもの指導にあたった。その結果、子どもたちの姿に、すぐに変化が表れ、組織力をもって取り組むことの重要性を実感することとなった。

学校関係者評価では、私たちが使命を全うすべく、子どもの成長を願い様々な取組を行っていることを理解していただいたこと、外部からみて改善点を明確にしていただいたことで、より重層化した評価となった。

これを受け、私たちは、一層信頼される開かれた学校づくりのために、具体的・組織的に学校改善に向かう意識を高めた。

学校便り・ホームページなどで、自己評価および学校関係者評価の実施とその結果を公表することで、保護者や地域から学校運営に対する理解と協力、参画を得ていく。どのような形式が正確に理解されるものなのか、今後検証を重ねていきたい。

今後もさらに検討を重ね、よりよい学校評価システムを構築させていくことで、保護者や地域住民の信頼に応える「開かれた学校」を目指していく。

【資料】項目のみ

<p>平成19年度 第1回自己評価書 (中間評価全体会) 実施日 8月29日(水) 札幌市立厚別通小学校長 校長 板木 武</p> <p>1. 中間評価のねらい 2. 児童の実態把握 3. 後期の重点と具体的な行動目標</p> <p>【問題解決へのアプローチ その1 あいさつ編】 【目標解決へのアプローチ その2 確かな学力の獲得編】 【目標解決へのアプローチ その3 学習(教科の基礎・基本)編】</p>	<p>札幌市立厚別通小学校学校関係者評価委員会 平成19年度 学校関係者評価書(中間) 平成19年9月28日 学校関係者評価委員会作成</p> <p>1. 学校経営の基本的理念 ～本年度の教育方針について～ 2. 本年度前半期の成果と課題 (中間評価～内部評価から)について ○学級経営案中間自己評価書について ○目標解決・問題解決のために ～第1回自己評価書(学校評価全体会)～ <u>あいさつのひびき合う学校へのアプローチ</u> <u>確かな学力へのアプローチ</u> <u>研究テーマとその取組について</u></p>
<p>平成19年度 第2回自己評価書 (学校評価全体会) 実施日 12月15日(金) 札幌市立厚別通小学校長 校長 板木 武</p> <p>1. 学校評価のねらい 2. 評価方法 3. 成果と課題</p> <p>【教育内容の充実に向けて】 ○特色ある活動 1 アベニューチャレンジ ○特色ある活動 2 朝の読書タイム ○多様な学習の指導方法の推進 ○安全教育の推進 【教育環境の充実に向けて】 ○日課表の変更</p>	<p>札幌市立厚別通小学校外部評価委員会 平成19年度 学校関係者評価書(年度末) 平成20年2月26日 学校関係者評価委員会作成</p> <p>1. 重点目標と運営内容について 【教育内容の充実に向けて】 ・特色ある活動1～アベニューチャレンジ ・特色ある活動2～朝の読書タイム～ 〔多様な学習指導方法の推進について〕 〔心の教育の推進について〕 〔安全教育の推進について〕 【教育環境の充実に向けて】 【外部教育環境との連携を目指して】 ・「開かれた学校」を目指して 2. 内部評価書作成にあたって</p>